

【国際センター】 留学生が松永カープジェーで活躍！

3月10日（日）松永西部市民センターで国際色豊かなステージ、体験コーナー、屋台が催される多文化祭り「フレンドリピックカープジェー」が開かれました。「カープジェー(CarpeDiem)」とはラテン語で「今日一日を有意義に使いましょう。楽しみましょう」という意味です。コロナを経て4年ぶりに復活した当イベントに本学の留学生がブルガリア体験コーナーを設けたりして彩りを添えました。



ブルガリアのソフィア大学、ヴェリコタルノヴォ大学からの交換留学生以下3名は、体験コーナーとしてブルガリアの伝統的な飾り物「マルテニツァ」のワークショップ、手作りの編み物の販売とライスデザートを試食を提供しました。

①ELISAVETA KIRILOVA (以下エリーさん)

②KONSTANTINA-PRESIANA DIMITRIOU (以下コニさん)

③DRALEV NIKOLAY IVANOV (以下ニコくん。3名とも人間文化学科の交換留学生です)



マルテニツァはミサンガのような飾り物です。ブルガリアでは春を祝う祝日である3月1日に家族、友人、恋人同士の間でお互いに交換し、相手の健康と幸福を願うそうです。



これらの編み物は全部エリさんが自らデザインし、手作りした一点物です。



「ムリャコ・ス・オリズ」(Mlyakooriz)は直訳すると「お米とミルク」というスイーツです。日本と同様にブルガリアでもお米を食べる習がありますが、ただ主食としてではなく、お米とお肉を焼く料理などおかずとして認識されています。またこのようにお米と牛乳と砂糖で作られるスイーツというイメージです。コニさんはこのライススイーツを日本の皆さんに味わってもらうために、朝6時から頑張ってお作っていました。想像しにくいと思いますが、実際食べてみると、ほんのり甘く優しい味わいで本当に食べやすく美味しかったです。



<紙コップの中にライススイーツが入っています。プリンみたいな見た目と食感で、シナモンやきな粉をトッピングしてもおいしいです。>

また「外国人市民のための交流ひろばとなんでも相談」コーナーに陳 思琦さん(国際経済学科2年)と苑 博文さん(がスタッフとして中国の折り紙の工作を家族連れに教え、一緒に楽しみました。アフリカのコーヒーコーナーはタブくんが手伝いました。



松永には、南米出身者やベトナム人など、外国をルーツとする人々が多く住んでいます。本学の留学生もこのイベントをきっかけとして、市民と交流をし、多文化共生への理解を深めていくことを願っています。

